



石巻西高実況中継

～学校の情報や生徒の様子をリアルタイムで家庭に届けます～

平成31年3月22日 第105号 最終号
発行者：校長 菅野 定行

修業式 校長講話

おはようございます。今この式に参加している皆さんは、一年間の学業を無事修め、4月から進級することを認められた諸君です。新学期になったら「あれをやってみよう、これを始めてみよう」と考えているものがあるはずです。その新鮮な気持ちを忘れずに新学期をスタートさせましょう。

さて、今日は皆さんに生徒手帳と筆記用具を持参してもらいました。「何をするのか」と思っている人もいるでしょう。これから私はある原稿を読みます。皆さんの学校生活を一年間眺めて感じた私の思いを込めました。その思いを受け止めてほしい。

ではどのように受け止めるのか。その方法ですが、私の話の要約をこの後どなたかに発表してもらいます。あらかじめ言っておきますが、要約ですから正解は一つではありません。こちらのメッセージをまとめ、自分の言葉で表現できればそれで100点です。私の言葉をなぞるのではなく、自分で考えて判断し表現することが大切です。誰があたるかわかりません。一回しか言いません。メモを取りながら全身で聞いてください。では始めますよ。

(「ユリノキ」あいさつ原稿を読む)

以上です。では、話の内容を1分間で前後左右の人と相談し、確認してください。何人で相談してもかまいません。周りに誰とも話していない人がいたら声をかけてほしい。では1分測ります。はじめ。 (1分間)

はい、1分たちました。どなたに発表をお願いしましょうか。では、●年●組●番のいますか？いたら起立してください。マイク持って行ってあげてください。メモを見ながらいいですよ。ではお願いします。 (生徒の発表)

ありがとうございました。皆さん、発表してくれた方に拍手をお願いします。実は今の話は生徒会誌「ユリノキ」のあいさつ原稿でした。すでに読んだ人もいたかもしれませんが。今まとめてくれたように、「失敗から学ぶことはたくさんある、だから失敗を恐れずに何事にもチャレンジしてほしい、失敗や挫折の体験を

通してたくましく成長してほしい」ということが理解できれば十分です。

そして、もう一つ言いたいこと。今日の集会のやり方、いかがでした？皆さん一生懸命聴いてくれました。自分にあたるかもしれないという緊張感。アウトプットしなければならぬ立場になると、人間の脳は一気に活性化するのでそうです。インプットした情報を自分の脳というフィルターを通し、自分の言葉で再構成して表現する。このプロセスを通して話の内容が自分の中に定着します。これが「主体的・対話的で深い学び」といわれるものです。もし私が一方的に話すだけだったら、話の内容は皆さんの中に定着しなかったかもしれない。つまり、人に説明できてはじめて学びは自分のものになるのです。

来年度の授業では今まで以上に「主体的・対話的で深い学び」を追究していきます。アクティブ・ラーニング型授業もどんどんやらせようつもりです。皆さんが積極的にこれらの授業に取り組み、学びの質を高めてくれることを期待して、修業式の講話といたします。

年度末・始め ～別れと出会い～

学校は出会いと別れの繰り返しです。その出会いと別れが教師と生徒、両方を成長させます。出会いがあります。3月27日(水)の合格者説明会です。西高35回生の皆さんが来校します。3月29日(金)朝、新しいクラスが発表されます。楽しみです。別れもあります。新クラス発表の後、離任式です。お世話になった先生方が西高から旅立ちます。寂しいです。

新年度4月8日(月)には新任式・始業式・入学式が行われます。先生方だけでなく、転入生として4月から西高の仲間になる生徒もいます。3月・4月の一人一人との別れと出会いを大事にしてください。

実況中継最終号

今年一年、実況中継で西高生の活躍の様子を伝えて105号となりました。次は新年度4月8日(月)です。春休み中健康に留意し、全校生徒518名、元気な姿でお会いしましょう。